

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	22 日	記入者	春日由広
調査者名	小倉	春日	仲谷	宮本	安川

文化財名	塔の森				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1954年(昭和29)3月2日				
所在地	奈良市長谷町、天理市福住町別所＝両市の境界で隣接している				
所有者 管理者	個人				
員数	1基				
時代区分	奈良時代				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	あり				
公開	見学は自由にできる。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	塔の森は海拔660mにあり、日吉神社からは急斜面が続き、数十分歩かねばならない。途中の山道は木々に覆われているが整備されていた。登るにつれて薄暗く、不安な気持ちになるが、案内板が設置されているので、迷うことなく、頂上で、基壇の上に立つ高さ約2.5mの六角六重の石造塔に到着できる。				
今後の課題	かつては、二重基壇の上に立つ六角十三重の石塔だった。春日石と呼ばれる柔らかい凝灰岩で造られているため、風化、破損がひどく、周囲には石塔の屋根や二重基壇の上の部分の断片が散乱している。これ以上の破損を防ぐ対策が必要と思われる。				
その他 (由緒など)	基壇・塔身には、蓮華文の古式の装飾があり、台座・笠石すべてが平面六角の形式は珍しく、現存する石造塔の中でも古く、奈良時代唯一の六角十三重の石塔である。かつては、付近にあった塔尾寺の遺物であろうと言われているが詳細は分かっていない。毎年7月1日に周辺の氷室神社(福住町)の献氷祭に先立ち、この地で祭祀が行われている。				
コメント	今も、頂上に1300年間、人々の協力によって、六角六重の石塔が立っている。自然の力に抗することができず、石塔の下に屋根や基壇が散乱し埋もれかかっている。本来の美しい六角十三重の石塔の復元を期待する。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	9月	22日	記入者	春日由広	
調査者名	小倉	春日	仲谷	宮本	安川	

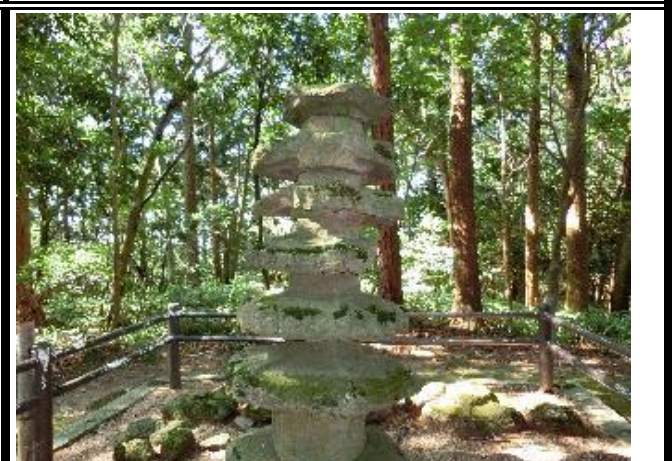
文化財名	塔の森
------	-----

日吉神社近くの説明板・案内板	案内板
----------------	-----



塔の森説明板

現在は六重だが元の塔は六角十三重の石塔



周辺に散乱した屋根の残欠

塔身の蓮華文

